

## 地域医療の現状と将来展望

わが国の医療制度は、医療者にとっても患者にとっても先進国の中で最も自由度が高く、効率的なものであると評価されています。しかしながら、小児科、産科、あるいは救急の各医療の崩壊が問題となっています。不安定生活者が増えるのに伴い無保険者が増え、医療を受けられない人も増えてきており、また医師の地域偏在傾向も改善されていません。豊かな社会となりましたが、すべての人が安心して、いつでも受診し相談できる医療が実現できているのか、現状を見つめ直す必要があります。

地域医療のあり方については、昭和60年代から医療法改正が繰り返し実施され、誘導がなされてきています。しかし医療サービスは、人が人に対して行う営みでもあり、法改正や保険点数の改定だけでは解決できない部分も沢山あります。

奇しくも、平成23(2011)年3月11日に東北地方で発生した東日本大震災は、医療資源が乏しい地域に発生した災害であり、しかも医療機関、医療従事者も多くが被災しました。わが国の地域医療のあり方を問う災害でした。地域医療をどのように立て直していくのかについて、被災地では苦労されていることと思います。

本号では、プライマリ・ケア、公的病院の現状、地域医療政策の歩み、地域医療現場の現状の報告などをもとに、地域医療の現状、課題、さらに将来展望について考えてみることにしました。



ペーパーイラストレーション／丹沢裕子